

和歌山大学の紹介

叶 志恩（マレーシア・経済学部1年生）

関西地域に在り、西に紀淡海峡や淡路島を望み、南に和歌山城を擁する市街地や大河紀ノ川の河口を見渡す景勝の地、榮谷の高台に位置する和歌山大学は、国立大学の中でも、特にすばらしい立地・環境を誇っています。色とりどりに染まる山々に囲まれた学内には、四季折々の見所があり、春になると、キャンパスの桜が満開になって、鮮やかなピンク色で彩られていて、秋になると、学内の木々が真っ赤に燃え盛ります。自然がいっぱいで、鳥のさえずりを聞きながら勉強できる環境はなかなか他ではないと言えるでしょう。

和歌山大学は、経済学部、教育学部、システム工学部と観光学部の4学部からなっています。教育面では、少人数制度により、担任の先生はもとより、同じ演習の仲間とも大いに論じ合うだけでなく、課外や大学外の生活でも親しくなり、生涯の友を作る場としてキャンパスライフが楽しめます。入学後幅広い学びに触れてから、自分がどの専門をより深く学んでいくかをじっくりと選ぶことが可能です。多様な領域の専門家が集まっているため、どの課程に所属しても各課程ごとの深い専門的な研究を進めることもできます。

有意義な大学生活を送るための課外活動も盛んであり、文化系クラブが所属する文化部連合会や体育系クラブが所属する体育会などを含めて、多くの団体が存在します。私は合気道クラブに所属しています。大学での4年間、勉学に励むこと以外に、課外活動を通して豊かな人間性を育むとともに、多くの仲間との出会い交流を深めていくことも大切だと考えられています。

近年、日本政府の提出した「留学生30万人計画」により、日本全国の大学のグローバル化が進む中で、和歌山大学も世界中の留学生を受け入れようとして、多くの協定大学の信頼を得、約30校との交流協定を締結しています。今の和歌山大学は多くの有為な留学生が目指す大学となっています。年々交流大学が増えると同時に、学術交流及び留学生の受け入れも増大傾向にあります。その担い手となっているのが2004年に創立された国際教育研究センター（IERセンター）です。外国人留学生の勉学をサポートするのみならず、様々な国々の文化の多様性を受け入れ理解する場として、一層の役割を果たせるよう努力しています。

教育に関しては、日本語能力がまだ十分ではない留学生向けに日本語科目が開設されています。それに、日本人学生との共修授業など国際交流関連授業もあり、学生同士で各国の文化や習慣などを教えたり、教わったりすることを通して異文化理解の実際体験ができます。大学における従来の授業による教育だけではなく、日本の特徴のある知識や経験を、生活の中でも習得できるような環境が提供されています。

また生活支援に関しては、国際交流会館をはじめとする、住居の斡旋、地域との交流、新入留学生歓迎交流会なども行っています。それに、日本に来たばかりの留学生にとって最も助かるのは「チューター」制度でしょう。和歌山大学のチューターさんたちは指導教員の推薦に基づ

き選定された日本人学生で、留学生対象の課外特別指導をしたり、一人一人に日常生活に関する助言を行ったり、留学生をサポートしてくれます。留学生にとっては、色々なことを相談できる先輩として、また良き友人ともなり得る存在です。

また、和歌山県内の国際化や多文化共生社会の推進が積極的に進められていると同時に、ボランティアグループも活潑に活動をしています。地元のボランティアの方々は、家族から離れて生活している留学生の親代わりとして親身になって、生活の面からいろいろと世話をしてくれます。そのお陰で、留学生達は和歌山での留学生生活を安心して送れるし、落ち着いて勉強にも集中できるようになっています。



今現在、和歌山大学には、約150人の様々な国から来た留学生がともに留学生生活を過ごしています。IERセンターで留学生が交流を深めるために用意されたスペースでは、昼休みの間に留学生達が一緒にお弁当を食べながら、親しくいろいろと話し合っている風景がよく見られます。特別に開設された国際交流関連授業で、よく皆で和歌山名所を訪ねたり、和歌祭りに参加したり、「和太」ならではのキャンパスライフを楽しんでいます。

「安心して留学生生活を送りたい」、「良い学習環境で充実したキャンパスライフを楽しみたい」、「日本語も日本の文化ももっと学びたい」、「希望する専門分野に進みたい」、「異文化理解や国際交流で活躍したい」・・・こんなあなたには、ぜひとも和歌山大学を選んで、かけがえのない留学生生活を送ってほしいです！